

No. 1650

政府専用機到着

— 羽田 —

首相の外遊や在外邦人救出などに活用するための政府専用機が11月14日羽田空港に到着しました。専用機は政府が4年前二機合計359億円で購入を決め機種はボーイング747型でアメリカで内部を改造していたもの。専用機は防衛庁が管理をし航空自衛隊のパイロットが北海道で訓練を行う予定です。お披露目には、竹下元首相をはじめ関係者がつめかけましたが導入を決めた中曾根元首相の姿はありませんでした。機内は最新鋭の通信器施設や貴賓室は非公開でしたが広い会議室、記者会見もできる記者団席、最新の設備のととのった医務室も設置されて見学者の評判は良好のようです。正式な運航開始は来年7月のドイツで行なわれる先進国首脳会議以後となるとか。さて初飛行の「空とぶ官邸」を操縦する首相は誰になるのでしょうか。

宮沢新内閣スタート

11月5日、衆参両院本会議で第78代首相に選ばれた宮沢首相は直に官邸入りして組閣を開始。加藤内閣官房長官、自民党の綿貫幹事長、佐藤総務会長、森政調会長の党三役もつぎつぎと官邸に呼ばれ挙党体制を旗じるしに組閣人事に加わりました。副総理兼外務大臣には渡辺派会長の渡辺美智雄氏に決まり、大蔵大臣羽田孜氏、通産大臣渡部恒三氏、運輸大臣奥田敬和氏、文部大臣鳩山邦夫氏と竹下派が主要閣僚ポストを押さえ、海部前内閣と同じく竹下派重視の内閣づくりとなりました。皇居での認証式のあと官邸で初閣議が開かれ、宮沢首相は「派閥次元と誤解される言動を慎むように」と述べました。

ひな段で恒例の記念写真をとる宮沢首相と新閣僚たち。しかし宮沢内閣はコメの開放問題、国連平和維持活動（PKO）の協力法案、政治改革など与野党の攻防を含め内外に難問を抱えてきびしいスタートとなつたようです。